

●正誤 昭和十三年四月一日局報號外達甲第九十二號通行稅徵收手續第四條第三項中「既收ノ普通稅額」ハ「普通稅額」ト同義錄通行稅印送付ノ件申「適宜」ハ「所定」ノハ、同局報號外達甲第九十三號對スル發見「改」ハ「改」ノ、同局報號外達甲第六頁上段「遠藤一好」ハ「遠藤一好」ハ、同四月二日局報號外達甲第四頁下段「中瀬滋雄」ハ「中瀬滋雄」ハ「執モ誤

▲鐵道關係雜誌記事目錄 第二五七號ノ六 (圖書部)

再び送電用鐵塔の風壓(太刀川平治)	電氣學會雜誌 五七卷五九二	N16
三相送電線並行二回線に於ける電氣故障計算法 (前川幸一郎)	同	同
送電系統に於ける靜電電器の應用(杉山清)	同	同
日本電力會社送電系統に於ける靜電電器の應用(山本見吉)	同	同
配電線の雷害と避雷(高岸英夫)	同	同
第九回萬國大送電網會議報告	同	同
萬能消弧リアクトル(前川幸一郎)	同	同
耐壓型懸垂導子の冷熱試驗(佐藤芳夫)	同	同
液體誘電體の電氣破壞(島山四男)	同	同
電氣鐵道、電化	同	同
電氣機關車の將來(石原忠義)	鐵道界 一六卷一一	J1
新製電車設計變更に就て(車輔課)	工作 (大鐵) 二五號	H5
冬期に於ける電氣運用電力(武廣泰雄)	大鐵電氣 三卷三	G8
季節による需要電力の變化(同)	同	同
電車限流中繼の調整方法(鈴木兵庫)	電車と電氣機關車 五卷一二	D3
大阪を中心とする省線電化工事	同	同
高加速度時代(電機車學會)	同	同
水抵抗裝置に就て	同	同
主抵抗器に依る損失電力(菅野貴男)	同	同
倫敦ボースマス間の鐵道電化(Rail Gazette, June 1937)	電力工學海外論抄 一巻八	G8

伊太利の高速電車(Rail G. Aug. 1937)	同	一卷九	G8
佛蘭西の不銹鋼製電車(同)	同	同	同
倫敦の新式市街電車(Rail Gazette, Sept. 1937)	同	一卷一〇	G9
市街電車の回生制動(複合電動機)の應用(Rail Gazette, Oct. 1937)	同	同	同
英國の Insbruck 機關車と修繕工場(同)	同	同	同
京都市に於ける無軌條電車(祝島男)	電氣協會雜誌 一九二號	D17	
關西方面の電氣防止(田中通雄)	電氣評論 二六卷一	B11	
國鐵電氣車の今昔(山下海太郎)	電氣之友 七八卷八三七	J15	
480HP デーゼル電氣列車用軸發電機並にその制御裝置(稻木利市)	日立評論 二〇卷一二	M14	
電氣鐵道と燈下管制(坂元常樹)	OHM 二五卷一	M15	
都市高速鐵道電氣設備の全面的考察 (向井幸一郎)	同	同	同
電車修電後地中金屬體に殘留せる感電電壓並に其の電氣測量上の應用(電氣防止研究委員會)	電氣學會雜誌 五七卷五九三	N16	
發電機、電動機、變壓器、整流器	電氣製造分野に於ける冶金技術の應用(大橋房德)機械及電氣 三卷一	X5	
電氣製造分野に於ける冶金技術の應用(大橋房德)機械及電氣 三卷一	結核機械 四卷一一	M10	
無段調整法(Werkzeugmaschine Jnl. 1936)	同	同	同
中繼所電流供給用の乾式整流器 (Elec. Comm. Vol. 16 No. 1, 1937)	通信工學邦文外國雜誌 五八號	K17	
電氣機關車に於ける保護裝置及其遮斷耐量 (J.I.E.E. Vol. 61 Aug. 1937)	電力工學海外論抄 一巻八	G8	
超高速再開路油衝遮斷器(E.E. Vol. 56 No. 8, 1937)	同	同	同
直列電氣器の應用に關する問題の研究(同)	同	同	同
巻線施行濟固定子の利用に依る發電機復舊期間 G 短縮(EI World Vol. 108 No. 7, 1937)	同	同	同
各種運搬裝置に適合せる電動機の種類と其の取付位置(同)	同	同	同

發行所 京城府漢江通拾五番地 朝鮮總督府鐵道局

(大正十四年四月一日) 第三種郵便物認可

(日刊除日曜及祝祭日ノ電日)

朝鮮總督府 鐵道局 局報

第三千三百九號

昭和十三年四月五日

火曜日

13.4.7 示

○達乙第二千三百三十九號

昭和十三年五月八日及五月九日ノ兩日東京市ニ於テ開催ノ財團法人中央佛教會及全日本佛教青年會聯盟聯合主催第八回全日本佛教青年會聯盟總會參列者ニ對シ内鮮滿蒙旅客運送規則第十七條ニ依リ運賃割引ノ取扱ヲ爲ス左ニ依リ取扱フベシ

昭和十三年四月五日

鐵道局長

一 割引區間 當局線、朝鮮內鐵道會社線及南滿洲鐵道會社所管線各連帶驛ヨリ東京驛行(釜山下關間航路經由)

二 割引期間 昭和十三年四月二十一日ヨリ同五月九日迄

三 適用期間 乘車券發賣ノ日ヨリ昭和十三年五月二十三日迄

四 割引率 五割

○達乙第二千四百十號

電話回線左ノ通新設、變更ス

昭和十三年四月五日

鐵道局長

局報 第三千三百九號 昭和十三年四月五日

(第三種郵便物認可)

通牒

○通第二三四號

團體乘車ノ件

168 滿人訪日視察團(ツリホニタン)(一部電報既達)三等二十名

代表者 木谷 慶悅氏

月	日	區	間	列車	便名	區	間	車種	車數	旅費	名	記	事
四月	六日	京	南	陽	間	第五〇八	八列	車					全員經乘使用

169 福岡縣筑紫中學校(モチシ)

三等 二百三名
代表者 井口 末吉氏

月	日	區	列車	便名	客車	貨車	旅館名	記	事
四月	七日	釜山	第一	便					
四月	七日	釜山	第二	便					
四月	七日	釜山	第三	便					
四月	七日	釜山	第四	便					
四月	七日	釜山	第五	便					
四月	七日	釜山	第六	便					
四月	七日	釜山	第七	便					
四月	七日	釜山	第八	便					
四月	七日	釜山	第九	便					
四月	七日	釜山	第十	便					

170 冀東教育廳主備訪日團(キトウ)

二等 二十五名
代表者 中地 武雄氏

月	日	區	列車	便名	客車	貨車	旅館名	記	事
四月	十四日	釜山	第一	便					
四月	十四日	釜山	第二	便					
四月	十四日	釜山	第三	便					
四月	十四日	釜山	第四	便					
四月	十四日	釜山	第五	便					
四月	十四日	釜山	第六	便					
四月	十四日	釜山	第七	便					
四月	十四日	釜山	第八	便					
四月	十四日	釜山	第九	便					
四月	十四日	釜山	第十	便					

171 京城第一高等女學校(ケイメ)

三等 百七十名
代表者 界 勝義氏

月	日	區	列車	便名	客車	貨車	旅館名	記	事
四月	十四日	釜山	第一	便					
四月	十四日	釜山	第二	便					
四月	十四日	釜山	第三	便					
四月	十四日	釜山	第四	便					
四月	十四日	釜山	第五	便					
四月	十四日	釜山	第六	便					
四月	十四日	釜山	第七	便					
四月	十四日	釜山	第八	便					
四月	十四日	釜山	第九	便					
四月	十四日	釜山	第十	便					

172 滿洲國大同學院(タイドウ)

三等 百九名
代表者 浦山 武一氏

月	日	區	列車	便名	客車	貨車	旅館名	記	事
四月	十四日	釜山	第一	便					
四月	十四日	釜山	第二	便					
四月	十四日	釜山	第三	便					
四月	十四日	釜山	第四	便					
四月	十四日	釜山	第五	便					
四月	十四日	釜山	第六	便					
四月	十四日	釜山	第七	便					
四月	十四日	釜山	第八	便					
四月	十四日	釜山	第九	便					
四月	十四日	釜山	第十	便					

173 福岡師範學校(モフシ)

三等 四十二名
代表者 江頭 秋郎氏

月	日	區	列車	便名	客車	貨車	旅館名	記	事
四月	十四日	釜山	第一	便					
四月	十四日	釜山	第二	便					
四月	十四日	釜山	第三	便					
四月	十四日	釜山	第四	便					
四月	十四日	釜山	第五	便					
四月	十四日	釜山	第六	便					
四月	十四日	釜山	第七	便					
四月	十四日	釜山	第八	便					
四月	十四日	釜山	第九	便					
四月	十四日	釜山	第十	便					

174 廣島千島會併優團(モチト)(一部電報既達)

三等 二十三名
代表者 山本 憲一氏

月	日	區	列車	便名	客車	貨車	旅館名	記	事
四月	十五日	釜山	第一	便					
四月	十五日	釜山	第二	便					
四月	十五日	釜山	第三	便					
四月	十五日	釜山	第四	便					
四月	十五日	釜山	第五	便					
四月	十五日	釜山	第六	便					
四月	十五日	釜山	第七	便					
四月	十五日	釜山	第八	便					
四月	十五日	釜山	第九	便					
四月	十五日	釜山	第十	便					

○通第二三五號 公衆電報取扱中改正ノ件

昭和九年十一月通第九一〇號公衆電報取扱中改正ノ件
陽化ノ項中「三百三十メートル以内」ヲ削ル
(通六六七二頁参照)

辭 令

朝鮮總督府鐵道局書記兼朝鮮總督府屬 山上 邦夫
免本官專任朝鮮總督府屬
三月三十一日

局外工場ニ於テ製作スル「ポイント、クロッシン」及信號機類ニ對シ
昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
(各通) 同保 技師 島田 昇二

局外工場ニ於テ製作スル「ポイント、クロッシン」及信號機類ニ對シ
昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
(各通) 同保 技師 島田 昇二

局報 第三千三百九號 昭和十三年四月五日

(第三種郵便物認可)

シ昭和十三年度中製作監督並ニ検査ヲ命ス
局外工場ニ於テ製作スル車輛ニ對シ昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
同車 同 今井 修二

(各通)

局外工場ニ於テ製作スル車輛ニ對シ昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
同車 同 今井 修二
同車 同 土橋 一郎
同車 同 西山 重道
同車 同 榎谷 正男
同車 同 藤井 仁吉
同車 同 青森 永稷
同車 同 藤縄 郁三
同車 同 大坪 竹二

(各通)

局外工場ニ於テ製作スル車輛ニ對シ昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
同車 同 今井 修二
同車 同 土橋 一郎
同車 同 西山 重道
同車 同 榎谷 正男
同車 同 藤井 仁吉
同車 同 青森 永稷
同車 同 藤縄 郁三
同車 同 大坪 竹二

局外工場ニ於テ製作スル車輛ニ對シ昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
同車 同 今井 修二
同車 同 土橋 一郎
同車 同 西山 重道
同車 同 榎谷 正男
同車 同 藤井 仁吉
同車 同 青森 永稷
同車 同 藤縄 郁三
同車 同 大坪 竹二

(各通)

局外工場ニ於テ製作スル車輛ニ對シ昭和十三年度中製作監督並ニ検査主任ヲ命ス
同車 同 今井 修二
同車 同 土橋 一郎
同車 同 西山 重道
同車 同 榎谷 正男
同車 同 藤井 仁吉
同車 同 青森 永稷
同車 同 藤縄 郁三
同車 同 大坪 竹二

設設 雇員牟田口一太郎
局外工場ニ於テ製作スル橋桁類ニ對シ昭和十三年度中製作監督竝ニ
檢査補助ヲ命ス
以上四月一日

（庶務課）
雇員（技）ヲ命ス 月給六十五圓ヲ給ス
庶務課勤務ヲ命ス（鐵）
四月二日
金子 得郎

(釜山鐵道事務所)
願ニ依リ雇員ヲ免ス
四月一日
釜檢 庶
雇員 渡邊 甚吾

(京城建設事務所)

雄岳工事區庶務掛ヲ命ス	庶	事見	備人	大西	俊一
清涼里工事區土木手ヲ命ス	徳工	土	同	北野	竹松
願ニ依リ備人ヲ免ス	雄工	定	同	橋本	照喜
備人ヲ命ス	日給八十二錢ヲ給ス		李	丙	鉞
京城建設事務所庶務係定備手ヲ命ス					
備人ヲ命ス	日給八十二錢ヲ給ス				
雄岳工事區定備手ヲ命ス					

金 鴻 洙

以上四月五日

雜錄

●朝鮮自動車交通事業令處分事項
自動車運輸事業ノ經營ヲ免許セルモノ左ノ如シ

道名	免許區至間	新程事業種別	申請者
平安北道	平安北道江界郡江界邑西部洞二百五十一番地ノ一地先	二軒 旅客路線 運送延長 平北自動車株式會社	

自動車運輸事業ノ運輸開始ヲ認可シタルモノ左ノ如シ

道名	區	間	至	行程	事業	申請 種別	申請者
咸鏡南道	咸鏡南道瑞川郡北 斗面大興里百廿五 番地先	同道同郡同面新德 里百九十九番地先	十四杆 六分	旅客路線 運送延長	共興株式會社		

自動車運輸事業ノ讓渡ヲ許可シタルモノ左ノ如シ

[illegible]

●正誤 昭和十三年四月一日局報雜錄欄應召者出發山本邦夫ノ「教育ノ爲」ハ「現役兵トシテ」ノ「召集」ハ「徵集」ノ、同四月三日局報五二頁下段六行目「昭和十二年十一月ハ」十二月ノ、同局報雜錄第1007、1008列車乗車客取扱ノ關スル件申中、昭和十二年十一月ハ昭和十二年十二月ノ又「京城大田間變更時刻ニ」ハ「安東大田間變更時刻ニ」孰モ誤

彙報

●補脱 昭和十三年四月三日局報雜錄欄掲載鐵道従事員養成所講習科ニ入所ヲ命ゼラレタル者ノ職名「圖」ノ下ニ「工」ヲ脱ス

●昭和十三年度公布豫算

第七十三回帝國議會の協賛を経て公布せられたる昭和十三年度公布豫算是鐵道局(作業費)に於て一億八百餘萬圓、建設及改良費に於て一億四百餘萬圓其の他私設鐵道補助費、拓殖鐵道敷設費等總計二億一千八百餘萬圓の巨額に達し朝鮮總督府特別會計歲出總額の五分の二強を占むるものであるが之等の費目別金額は次の通である

科	昭和十三年	昭和十二年	增△減
目	度公布豫算	當初豫算	追加豫算
歳入總常部			
官業及官有財産收入	三九、八三〇、〇九二	三三、五六一、八九三	四、五三八、五〇〇
自來水收入	三九、八三〇、〇九二	三三、五六一、八九三	四、五三八、五〇〇
自動車收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
旅客收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
貨物收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
自來水收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
小口貨物收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
雜收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
北鮮鐵道委託金	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
鐵道受託金	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
工事收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
假收入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
替金受入	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—
歳出總常部			
鐵道	四三、〇三三、五五九	四三、〇三三、五五九	—

[illegible]

款用品及工作收入	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四
項用品及工作收入	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四
項雜 收入	七、三〇、八	七、三〇、八	七、三〇、八	七、三〇、八
歲 出				
款用品及工作費	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四
項用品及工作費	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四	五二、一六、四四

經常部に於て本年度豫算を十二年度當初豫算と比較すれば鐵道及自動車收入は前年度に比し一七、三二、一六九圓(一割四分一厘)を増加したるも鐵道局(作業費)は同じく一四、九六、七七九圓(一割五分九厘)を増加したるを以て差引益金は前年度に對し二、三五九、三九〇圓(八分一厘)を増加したり。収入増加の主なるものは事業増進並に新線開通に伴ひ旅客收入に於て六百五十萬餘圓(一割八分二厘)、貨物收入に於て五百二十六萬餘圓(一割三分七厘)の増加を計上せる外宅抜制度實施に伴ふ小口貨物集配収入の増加、北鮮鐵道納付金増加等である。

臨時部に於て鐵道建設改良は事業の緩急を測り一部の繰上並に繰延を爲すと共に最近の狀態に鑑み京城平壤間複線工事及通信施設改良の爲新に三千九百八十八萬圓を追加し其の一部工事を十三年度施行のこととし結局十三年度年割額は建設費三千二百二十二萬餘圓改良費七千二百十六萬餘圓となつた。外に拓殖鐵道敷設費として九十五萬圓私鐵補助費四百十萬圓等が主要なるものである。

用品會計に於ては前述の如き鐵道事業の異常なる膨脹に順應し用品會計收支五千二百十八萬餘圓に上り前年度に比し四割二分の増加となつた。従つて用品資金二百五十萬圓を以てしては運用の困難を來すを以て朝鮮總督府特別會計より五十萬圓の用品資金繰入を受け資金合計は現行朝鮮鐵道用品資金會計法の規定する最高限たる三百萬圓となつた。

圖となつた。

●十二年度新製機關車に就て

内地車輛會社に註文中であつた「プレタ」サタ「テホ」「バシ」「ミカ」等各型式の機關車が多數落成し、何れも昨秋以來釜山工場に於て組立を施行し各機關區に配屬實務に就て居る。

此等各機關車に共通なる改良箇所は空氣制動機部分品にK-14-10制動弁(脚臺付)M-3-A給氣弁M-3減壓弁N-6分配弁ND型壓力加減器等新型のものを採用したことである。他の部分に對しては「プレタ」「テホ」「ミカ」型には尙次に述べる變更箇所があるが其の他の型式では從來通りである。

「プレタ」型機關車に就て

「プレタ」型機關車は主要寸法に於ては從前のもものと殆んど同一であるが今日迄の使用經驗を基礎として取扱並に保守に便利なるやう全般的に改良を加へた。その主なる點は次の通りである。

- (一) ピストン弁直徑を二三〇耗(從來二〇〇耗)に増大し且蒸氣重り蒸氣口及弁行程を夫夫二〇耗、四〇耗及一二八耗(從來三一耗、四五耗及一五二耗)に縮小し、以てリンクの形狀を簡易にし従つて弁裝置全體の構造及作用に無理なからしめた。
- (二) バネ裝置に於ては從來第三働輪上に在つた擔バネを第二、第三働輪の中間に移し釣合梁を以て之に代へ、灰箱との間に十分なる餘裕を與へ、又バネの徑間を縮小して、強度を増加せしめた。
- (三) 基礎制動裝置にあつては殆んど全部變更してあるが就中制動軸及軸受箇所並に手用制動裝置を取扱易きものとした。
- (四) 從來側方水槽の前方が主蒸氣管を蔽つてゐる管の漏洩等の場

合取付取外に困難であつたのを水槽容量をそのすまとし長さを短縮し幅を増してこの不便を除去した。

(五) 其の他注水器をシンプレックス型第八番とせること、給油器を五本給油見送式とせることも注目すべき相違點である。

尙三三一號以後は京城工場の製作であるが設計は三二七號と全然同一である。

「テホ」型機關車に就て

「テホ」型機關車は機關車部は從來と同一であるが、炭水車に次の變更を加へた。

水槽前方石炭開口部分を三〇〇耗高くして焚火竝に水槽内部の検査修理に便利ならしめ又之に伴つて水槽容量も増加して二〇立方(從來一七・五立方)米となつた。

「ミカ」型機關車に就て

「ミカ」型機關車の中で一七四九號迄は水槽容量二三立方であるが一七五〇號以後は「バシ」型同様二八立方の大型とした。

從來も新製の際は大型の炭水車を附屬して居つたのであるが組立の際バシ型のものに取換て居た。この取換も一段落したので今後「ミカ」型も大型炭水車となるわけである。

「プレタ」「テホ」「ミカ」(一七五〇)の型式圖は關係の向に配付す。

▲鐵道關係雜誌記事目錄 第二五七號ノ七 (圖書館)

發電機、電動機、變壓器、整流器 (續)

Jansen 式負荷時電壓調整變壓器の十年間の發展

(E.T.Z. 58 Jahrg. 1. oct. 32. 1937)

電力工學海外論抄 一巻八

CS

12相水銀整流器の運轉實驗(同 Jahrg. Heft

34. 1937)

同

格子制動整流器の電壓變動率(E.E. Vol 56

同

1010 CS

工作機械の制動閉鎖器(同)

同

電動機用新型同軸軸承(E.T.Z. 58 Jahrg. Heft.

同

40. 1937)

同

格子制動整流器の電壓變動率(E.E. Vol 56

同

1010 CS

單相誘導電動機動作 (同)	Vol. 56 No. 10	同		
直流機過負荷損耗試驗法 (同)	同	同		
新型直流變壓器 (圖 Vol. 56 No. 11)	同	同		
タップを持つた變壓器の漏洩リアクタンスの計算式 (同)	同	同		
電氣機器の重量及び價格と容量との關係の新しき考へ方 (竹内壽太郎)	電氣工学 二六卷二二	L10		
電力用遮斷器綜合報告 (電氣事故防止協同研究會) 電氣協會雜誌 一九二號	電氣評論 二五卷一一	D17		
600V 400A 硝子製水銀整流器 (野口一)	同	B11		
3000 W オルト直流通電機發生裝置 (大槻俊郎)	同	B11		
二重龍形誘導電動機の特性算定法 (藤田伊八郎)	電氣之友 七七卷八三六	B11		
各整流器の現在と將來 (尾本義一)	同	J13		
最近に於ける水銀整流器の應用 (秦常造)	同			
ガラス製水銀整流器最近の趨勢 (土原豊喜)	同			
水銀整流器の發達史を彩る秘密懷古と其現狀及將來 (松浦二郎)	同			
水銀整流器使用の實績 (岡田司)	同			
熱陰極ガスを整流管の現狀 (藤田文太郎)	同			
セレンウム整流器 (梶井謙一)	同			
金屬接觸整流素子の諸性質 (鈴木久王)	同			
酸化銅整流器 (小谷新治)	同			
最近に於ける直流通電機の改良 (澤野秀政)	同			
高壓磁石發電機の二次回轉電壓と其影響 (塚月重雄)	同			
弧光整流器に依り交流配電線に誘起する電氣振動 (佐藤芳夫)	同			
20KV 電力用變壓器 (駒井健一郎)	日立評論 二二卷二	M14		
20KV 600A 2300/300KV 油入遮斷器 (澤野友石) 同	同			
同轉型調相機と靜止型調相機との協調 (村木由夫) 同	同			
關西共同火力第二發電所納 93750KV タービン發電機 (井上八郎右衛門)	三菱電機 一三卷一〇	F11		

電力用應用號	OHM 二四卷一三	M15
スライダック及小型電壓調整器 (森山正一)	同	
整流器直流通電機に於ける電流線路 (堀原三郎)	同	
電機用刷子の運動と刷子保持器 (赤沼哲郎)	同	
變壓器油の對流 (植木鶴一)	同	
ホワイトオイルの酸化に於ける變壓器油添加の影響及吸着劑の酸化防止作用 (水島幸吉)	電氣試驗所研究報告 四二號	P11
可變速度電動機の特時定數の變化及び溫度上昇の機構 (上田大助)	電氣學會雜誌 五七卷五九二	N16
同轉整流子に於ける火花整流除去の一方法 (渡邊孝)	同	
交流遮斷器の現狀	同	
臺灣電力株式會社臺北變電所に増設されたる AEG 製 40,000 KVA 變壓器 (後藤賢二)	同	
同轉電機内電氣振動の一型式 (小川春吉)	同	
イグニッションコイルの負荷特性 (三好保憲)	同	
高壓磁石發電機の調相特性 (塚月重雄)	同	

▲鐵道關係雜誌記事目錄 第二五八號		
建築一覽	京城土木建築協會報 二卷一一	E3
防空と建築問題 (田邊平學)	建築雜誌 五一卷六三	M16
第二回萬國橋梁、建築協會大會に於ける決定意見 (坂靜雄)	同	
投下爆彈と日本家庭 (田邊平學)	同	
建築生産の合理化 (市浦健)	同	
鐵鋼工作物建築許可規則に關する座談會	同	
鐵鋼工作物建築許可規則に就て (平井富三郎)	同	
防空と建築 (濱田稔)	同	
防空と建築 (佐竹保治郎)	同	
建築監督、序説 (谷口吉郎)	同	

定價 一箇月 郵 稅 共
金 六 十 三 錢

發行所 京城府廣江通十五番地
朝鮮總督府鐵道局

(大正十四年四月一日) 第三種郵便物認可 (日刊除日曜及祝祭日ノ翌日)

朝鮮總督府 鐵道局 局 報

第三千三百十號

昭和十三年四月六日

水 曜 日

達 示

◎達甲第二百十號

昭和十年八月達甲第四百三十四號鐵道事務所、建設事務所及改良事務所所管工事區名稱、位置及受持區域中左ノ通改正ス

昭和十三年四月六日

鐵道局長

城津鐵道事務所羅跡工事區ノ行ヲ削リ延社工事區受持區域ノ欄ニ「白茂建設線第八工區」羅跡新陽間線路ヲ加フ

(庶務上六一頁參照)

◎達甲第二百一十一號

昭和十年八月達甲第四百三十四號鐵道事務所、建設事務所及改良事務所所管工事區名稱、位置及受持區域中昭和十三年四月十一日ヨリ左ノ通改正ス

昭和十三年四月六日

鐵道局長

京城建設事務所雄岳工事區ノ行ノ次ニ左ノ如ク加フ

平壤建設事務所 江界工事區 平安北道江界郡江 滿浦建設線江界滿浦間線路 (軌道) (庶務上六一頁參照)

◎達甲第二百一十二號

昭和五年三月達第二百號線路支障取扱手續中左ノ通改正ス

局報 第三千三百十號

昭和十三年四月六日

(第三種郵便物認可)

昭和十三年四月六日

鐵道局長

第四十五條第一號中「別河公仁間」ノ行ノ次ニ左ノ如ク加ヘ同條第二號中「新倉新成川間」ノ行ヲ削ル

新倉新成川間

修德

新倉

(工務四五七頁參照)
(運輸一〇七頁參照)

◎達乙第二百四十一號

昭和十三年四月二十四日ヨリ同五月一日迄東京市ニ於テ執行ノ靖國神社春季臨時大祭及春季例大祭參拜遺族ニ對シ内鮮滿蒙旅客運送規則第十七條ニ依リ運賃割引ノ取扱ヲ爲ス左ニ依リ取扱フベシ

昭和十三年四月六日

鐵道局長

一 割引區間 當局線、朝鮮內鐵道會社線及南滿洲鐵道株式會社所管各連帶線ヨリ東京、新宿又ハ飯田橋驛行 (釜山下關間航路經由)

二 割引期間

昭和十三年四月十日ヨリ同五月一日迄

三 通用期間

乘車券發賣ノ日ヨリ昭和十三年五月十五日迄

◎達乙第二百四十二號

新義州交換加入電話左ノ通新設、變更ス

昭和十三年四月六日

鐵道局長

七五